

＼情シスさん必見／

IBMi(AS400)のアプリ保守を委託したい…！

社内説得のためのポイント集

こんなお悩みのある方向けの資料です



- ・ アプリ保守を外部に委託したいが社内説得が必要で困っている
- ・ 外部に委託するのが本当に安全なのか不安



現状の課題発見の方法や社内説得のポイントなど、例を交えてをお伝えします！

- ・社内説得前にやっておくこと①
- ・社内説得前にやっておくこと②
- ・社内説得のためのポイント 1．背景と課題
- ・社内説得のためのポイント 2．目的
- ・社内説得のためのポイント 3．委託のメリット
- ・社内説得のためのポイント 4．委託をしなかった際のリスク
- ・社内説得のためのポイント 5．委託企業の選定基準
- ・社内説得のためのポイント 6．委託時のリスクと対処法
- ・【おまけ】保守委託で失敗しないためのポイント
- ・トライビュー・イノベーションの特徴

その1

現状とあるべき姿のギャップを書き出して問題点を整理する

例

As is (現状)	To be (あるべき姿)
<ul style="list-style-type: none">・ 情報システムの担当が忙しすぎる・ 社内アプリの管理が属人化されていて、唯一の理解者の定年も間近・ プログラムのドキュメントが古すぎる	<ul style="list-style-type: none">・ 情報システムの担当が本来行うべき業務を実施できている・ 社内アプリの管理は標準化によりチームで対応できている・ 最新に更新されたプログラムのドキュメントがある

このギャップが「問題」です

その2

その1の問題点(ギャップ)を埋めるための課題を明確にする

As is (現状)	課題 (やるべきこと)
<ul style="list-style-type: none">・ 情報システムの担当が忙しすぎる・ 社内システムのアプリケーションの中身を理解している唯一の人が定年間近・ プログラムのドキュメントが古すぎる	<ul style="list-style-type: none">・ アプリの運用保守を集中してやれる環境をつくる・ 担当が引退する前に、社内システムのアプリケーションの保守を引き継ぐ・ ドキュメント類を管理する体制を作る

対策：保守を信頼できる企業に委託する

問題点を整理し課題を明確にすることで、それに対する対策を打ち出すことができます

1. 背景と課題

保守委託を検討する背景となっていることを書き出してまとめておきましょう。
どのような問題が社内で起きているかを具体化することは、適切な課題対処につながります。

背景・課題の記載例

内部スキルの不足

組織内にAS/400の専門スキルが不足しているため、外部の専門家に頼る必要がある。

社内要員の高齢化

これまで自社でシステム運用・保守をしていたが、システム内容を理解している社員が定年間近なため、引退前に保守を引き継ぎたい。

現在のベンダーの事業撤退

現在保守を委託している企業がAS400の事業から撤退してしまうが、システムを使い続けるために他の企業を探す必要がある。

人的リソースの効率化

組織が内部の人的リソースを戦略的なプロジェクトや新規開発に注力させるため、日常的なアプリケーション保守作業を外部に委託したい。

2. 目的

課題や問題の先には、何のために委託を行うのかの目的があるはずです。
向かう目的を明確にしておくことで、委託先を選ぶ基準や課題の対策も最適化されていきます。

目的の記載例

法対応

業界によっては急速かつ複雑に変化する法的要件への迅速な対応を確保する必要があります。法規制や業界標準は頻繁に変更され、これに迅速に適應できないと、企業は法的なリスクにさらされる可能性があります。

保守の委託は、外部専門家が最新の法的要件に即座に対応できるため、法的コンプライアンスの維持しリスクの最小限に抑えます。これにより、企業は法的トラブルを回避し、事業の安定性を確保することが期待されます。

システムの機能拡張

システムの機能を拡張し、新しいビジネス要件に迅速に適應することも保守委託の目的によくある例です。

現代のビジネス環境は急速に変化しており、企業は柔軟性を維持し、競合他社に先駆けて新しい機能を展開する必要があります。

また、業務に合わせて企業独自にシステムを作っている場合は、今のシステムを使い続けたいという目的でアプリ保守を委託する例も多くあります。

人員コストの削減

アプリケーション保守を外部に委託することで、企業は人員コストを削減し、内部リソースをより戦略的なプロジェクトに注力できます。

これにより、必要に応じてリソースを活用し、業務の効率を向上させながら、同時に経営戦略に資源を集中させることが可能になります。

現在の社内の保守担当が定年間近の場合は人材育成にもコストがかかるので、委託することで人員コストの削減につながるでしょう。

3. 委託のメリット

「社内説得前にやっておくこと」で挙げた課題を保守委託で解決できる場合は、その内容をメリットとして記載しておくことが大切です。

メリットの記載例

AS400の専門知識と柔軟なサポート

AS400は特有のハードウェアとオペレーティングシステムを使用しており、その専門知識を持ったスキルが必要です。新たに社内で育成することも難易度が高いため、システムの特徴や最適な保守手法を理解している企業に委託することで、問題にも迅速に対処できます。

リスクの分散

アプリケーション保守を外部に委託することで、特定の個人や内部リソースに依存せず、リスクを分散することができます。外部のパートナーシップは、緊急の対応やリソースの不足に対する保険として機能します。

時間と労力の節約

アプリケーション保守は複雑な作業であり、それに時間と労力を割くことが必要です。委託することで、内部の開発チームは新しいプロジェクトや機能の開発に重点を置くことができ、戦略的な業務に集中できます。

4. 委託をしなかった際のリスク

課題や問題点を放置して、そのままシステムを使い続けることは、様々なリスクが伴います。
保守をする人がいない期間をつくらないように、委託をする際には早めに企業選びを始めるようにしましょう。

主なリスク例

1

運用・業務の停止



システムを運用できる人がいない状態で使い続けると、突然の障害や故障が発生した際に迅速な対応が困難になります。これにより、システムの停止時間が長くなり、業務に対する影響が大きくなる可能性があります。

2

法的コンプライアンスの不履行



業界規制や法的要件が変更された場合、これに対応するための更新や変更ができないと、法的なコンプライアンスの不履行が発生し、法的な制裁や罰金のリスクが生じます。

3

故障による重要データの消失



故障等によりサーバが正常に起動しなくなってしまった場合、重要なデータにアクセスができなくなる、会社の機密情報や顧客情報などのデータを消失する、といった危険があり、企業の信頼度にも影響があります。

5. 委託企業の選定基準

委託時には複数の企業を比較検討することになります。その選定基準を明記にしておくことで、安心して委託できることをアピールでき、上司の納得につながります。

既に比較検討し企業を絞っている場合は、基準に沿った比較表を作成し、決めた企業が妥当であることをアピールしましょう。

選定基準の例

AS/400の保守事業に注力している会社かどうか

AS/400のエンジニアは減少傾向にあり、既に保守を任せていたベンダー等が撤退してしまったという話を耳にします。金銭的・時間的予算を消費したにも関わらず、直ぐに変わりの保守企業を探さなくてはいけない…という事にならないよう、AS/400事業に注力している会社かどうかを見極めることが重要です。金額だけでなく、エンジニア数の増減や業績等も確認しましょう。

保守委託先の連携体制が整っているか

万が一の事態に備え、迅速・確実に復旧作業を行えるエンジニアをアサインできる体制を整えている会社に保守を委託しましょう。急な障害が発生した際、エンジニアのアサインに時間がかかり、復旧作業に着手するまでに時間を要します。社内のエンジニアが足りず、外部のパートナー企業に実務を委託している会社には要注意です。

保守委託範囲外の相談ができるか

AS/400の安定稼働の為には、保守サービスの範囲外でのサポートが必要になる可能性があります。例えば、インフラに関する事などの相談にも対応してもらえると安心です。契約する会社が増えると、余計な工数が増えることもあるので、委託する予定の保守会社に、システム環境のトータルサポート体制が整っているかどうかを確認しておきましょう。

6. 委託時のリスクと対処法

委託はリスクゼロというわけではありません。

想定できるリスクと合わせて、その対処法を記載することで、リスクアセスメントが出来ているということを上司に納得してもらえらるでしょう。

選定基準の記載例

リスク 隠れたコストや追加料金

契約に含まれていない追加作業やサポートに関するコストが発生し、予算を超える可能性があります。

対処法 追加料金が発生する可能性がある作業やサービスを明示してもらう。

サプライヤーとの透明なコミュニケーションを確立し、追加作業が発生した場合には事前に連絡をもらうようにする。

リスク セキュリティリスク

外部にアプリケーションの保守を委託することで、セキュリティの脆弱性が発生する可能性があります。

対処法 委託先とのセキュリティポリシーと運用方法を共有し、セキュリティ対策の基準を定めた契約を締結する。委託先がセキュリティ標準を遵守しているかを定期的に監査する。

実際に保守を依頼する際には、事前に知っておくべきいくつかの注意点があります。
これからご紹介するポイントを事前に確認しておくことで、社内稟議などにも役立つはずです。
ポイントを意識して**信頼できる業者に保守を委託する**ようにしましょう。

初期調査前では、 正確な保守費用は出せない

保守費用は基本的に、お使いのシステムを詳しくヒアリングを行い業務を可視化した後に、詳細な見積を出すことができるようになります。初期調査前の段階で細かい内訳までは分かりません。詳細な内訳の入った格安な見積書を提示された場合は、初期調査後に追加請求される可能性があることにご注意ください。初期調査をした上で、サービス内容・予算を伝えて保守の見積を依頼しましょう。

簡易可視化ツールを用いた 初期調査では足りない場合も

保守委託のための初期調査では、綿密なヒアリングを通してシステムの細部を把握する必要があり、そのための作業にエンジニアの工数・費用が生じます。安価かつ短時間で行う「簡易的な可視化ツール」を用いた調査では、十分な情報を取得できず、一部の障害対応を行う際に、そこから業務について確認し作業を行った結果、復旧までに時間を要してしまった」といった声をよく耳にします。システムの安定稼働の為に、可視化ツールによる初期調査だけではなく、業務のヒアリングを含めた調査が必須です。

1. RPG技術者を増員し、サポート体制を強化

日本のRPG技術者は減少傾向にありますが、当社ではAS/400事業に軸足を置くために年々技術者数を伸ばしています。今年採用した若手のRPG未経験者に対して、知識が豊富で高い技術を持つ先輩社員がOJTで教育をしています。

迅速・丁寧なサービスが提供できる環境を維持し、お客様が今後もAS/400を安心して利用し続けられるよう体制を増強してまいります。

2. 保守の専任チーム体制によりコストを削減し低価格を実現

当社内にAS/400の専任チームを設け、お客様からお預かりしている複数の案件を専任チーム内で効率よく作業分配することで、技術者の人員確保や環境整備のコストが削減されます。

現在は、保守契約を結んでいただいている30社以上のお客様を適正にサポートできる体制を維持し、低価格にてご提供しております。

3. 当社内で保守対応を完結させるため、精緻な情報共有で緊密な連携が可能

保守会社の中には、実際の運用・保守をパートナー企業に委託している所もありますが、当社は、初期調査から保守の実行まで社内の技術者が一貫して担当します。

営業社員と技術者が社内に在籍しているため距離が近く、トラブルが生じた際も、お客様のご意向との齟齬が生じません。

4. ワンストップサービスで業務負荷を軽減

保守をお引き受けする中で、AS/400以外のシステム環境についてもサポートしてほしいとのご依頼を多くいただきます。

当社には、AS/400の保守に限らず、インフラ関連や運用支援など安定稼働に関するお困り事のご相談をお受けし対応します。

快適なシステム環境の構築に向けてトータルサポートが可能です。

トライビュー・イノベーションはお客様のICT環境をトータルサポートするために、以下の領域に分けてサービスを展開しております。



ご相談無料ですので、以下のリンクからお気軽にお問い合わせください！

https://www.triview-innovation.com/contact/contact_us/

トライビュー・イノベーション株式会社

〒103-0013

東京都中央区日本橋人形町1-17-4 JPR人形町ビル 6階

Web : <https://www.triview-innovation.com/>

